

フィリピンの水源地域における サトウキビ畑の有機農業への転換

活動地域  フィリピン

ひろげる助成

3年目

実践

堆肥舎の年間生産
キャパシティ **40 t**

有機農業の拡大面積 **3 ha**

今年度計画の達成度 **80 %**

目標達成度 **90 %**



専門家が土壌の酸性度の測り方を指導

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

当初予定していた専門家の都合がつかなくなったため、別の専門家と調整したところ、派遣の時期が助成期間の後半になってしまったこと。

■ 工夫した点

専門家派遣中にプロジェクトマネージャーも2回渡航し、事前・事後にも打ち合わせを行うことにより、派遣が効果的なものになった。現地の大学と連携できたことにより、普及効果が高まった。

課題

農地改革で水源地域の不利な立地にあるサトウキビ畑を割り当てられた小規模農家が、化学肥料を使ったサトウキビ栽培をし、採算が取れていないこと。

目標

化学肥料や農薬を利用した収益性の低いサトウキビ栽培から、環境にやさしく収益性の高い有機農業に転換することで水源地域の環境を保全しつつ住民の生活が豊かになること。

活動内容と成果

住民団体のメンバーを対象に、農業計画のワークショップを行った。計3haの農地の開墾を住民団体のメンバーが協働で行った。パタッグ村に新たに20aのデモファームを整備し、多様な野菜を栽培している。有機農業の専門家を2か月間現地に派遣し、住民団体向けと大学の教員向けにそれぞれ5回ずつ講義と実習を行った。また、現地で手に入る材料を使った培養土づくり、苗づくり、栽培実験の指導も行った。今では、現地スタッフだけで、以前と比べると格段に質の良い苗が育てられるようになり、栽培にも成果が出ている。



現地スタッフが育てたトマトの苗



新たに整備した高地のデモファーム

全助成期間の活動を振り返って

これまでは、フィリピンに駐在しプロジェクトの運営を行っていたが、本プロジェクトは若手PLの研修を受けながらフィリピンに通い、現地スタッフと遠隔で連携しつつプロジェクトを運営した。帰国後新たにつながった専門家の協力も得ることができ、計画当初よりも多くの関係者とともに、より実用的な有機農業の技術移転に発展させることができた。今後も日本とフィリピンで連携しながら、技術の向上と普及に努めていきたい。

〒460-0004
愛知県名古屋市中区新栄町2丁目3番地 YWCAビル7階
電話：050-5579-7651
E-mail：ikawako.mangrove@gmail.com
HP：http://ikawako.com/



今後の展望

助成活動後半に現地スタッフが習得した、栽培計画・記録・栽培管理のノウハウを住民団体のメンバーにも普及していきたい。また、将来的には、デモファームで収穫体験などを行い、観光による収入も得ていくことで収益性を高め、有機農業事業で現地の雇用が生み出せるようにしたい。さらに、堆肥舎を拡大し、有機農業を普及するため、近隣農家へたい肥や苗などの資材の供給もできるようにしたい。